

笑顔で対話

令和7年8月

羽島市教育委員会

未来を拓く 探究のチカラ ～こどもが主人公の探究的な学び～

未来を生きるこどもたちにとって、自分の力で「課題」を創り、その解決に向けて「方法」を考え、追究していく「探究的な学び」は非常に重要なものです。幼稚園・小学校・中学校で、発達段階に合わせて、主人公となって「学ぶ」姿を紹介します。

「やってみたい！」から生まれた「せいぶ万博2025」

西部幼稚園では「せいぶ万博2025」を開催しました。一緒に生活する友達の国に関心をもち、大阪万博のようなイベントを「やってみたい！」と考えたからです。

自分で図鑑や地図を調べたり、仲間と話し合ったりして、園児たちは、自分たちのアイデアを形にし、いろいろな国のパビリオンを準備しました。

当日は地域の方々も多く来園し、大盛況。各パビリオンでは、その国の衣装を着た保護者と、国ごとの文化をイメージした遊びをしたり、料理を振る舞ったり。来園者からは「楽しい」という声がたくさん聞かれ、園児たちは「自分たちの考えたメニューを喜んでくれてうれしかった！」と満面の笑みで話していました。



日常生活の問題を自分事にする環境学習

福寿小 5 年生の総合的な学習の時間のテーマは、「環境」。こどもたちは、今までの学習や日々の生活の中から、「ゼロカーボン」「河川環境」「ごみ問題」など、自分の関心がある課題を選び、学習を進めています。

ごみ問題を調べていた堀田さんは「きっかけは登下校中に見かけるポイ捨てごみの多さ」と話していました。「ごみを減らすために、自分たちにもできることがあるはず」という思いから「ごみの量を調べて地域に伝えたり、ポスターを作成して校区に掲示したりすれば、ごみを減らすことができるのではないか」と仲間と話し合いました。このように、日常生活の問題を自分事として考え、行動することは、意味のあることです。



世界の環境問題から学ぶ

羽島中2年生は総合的な学習の時間で「世界で起きている環境問題」について学んでいます。

いくつもある環境問題の中から、自分でテーマを選びます。野田さんは近年、世界で記録的な猛暑が続いていることから「地球温暖化」に関心をもち、異常気象の背景や世界や日本の取組についてインターネットを使って調べていました。今後、調べた内容について、学級内で交流し、様々な角度から理解を深めるそうです。

中学校では、視野を広げる中で、自分が持続可能な社会づくりの担い手となるための学びを進めます。



チーム担任制の導入 ～こどもが主体者になる試み～

中央中学校では、今年度より新たな取組として「チーム担任制」を導入しました。これは、学級担任を固定せず、1つの学級を複数の教員で担当する制度です。

チーム担任制を取り入れることで、行事などの運営がより生徒の手に委ねられたものとなるとともに、悩み事などがあつた時、自分が相談する先生を決めることができるようになります。これによって、生徒が主体的に考え判断し行動する力を身に付けるとともに、多様な価値観に触れる機会を増やすことをねらっています。

4月と7月には、全校生徒対象にアンケートを実施しました。アンケート結果を見ると、「チーム担任制」に対して「安心できる」と回答した生徒の割合がすべての学年で上昇しました。その中には「いろいろな先生と関わることができて楽しい」といった肯定的な意見が多くある一方で、チーム担任制に対してネガティブな考えをもつ生徒や保護者もいます。今までの学級担任制に慣れた3年生には、抵抗もそれなりにあるようです。

中央中学校では、今後も、チーム担任制のよさを生かしながら、こうした意見に真摯に向き合い、よりよい制度となるよう改善を図って、生徒たちの学校生活を充実させたいと考えています。



羽島市教育委員会事務局 教育政策課

〒501-6292 羽島市竹鼻町 55 番地

TEL (058) 393-4611 FAX (058) 391-0906

Email : kyoiku@city.hashima.lg.jp